



地域病院における特定ケア看護師の役割

市立恵那病院 特定ケア看護師 松永智志

はじめに

私はJADECOM-NDC研修センター1期生として看護師の特定行為研修を修了しました。現在は岐阜県東部の恵那市にある市立恵那病院で特定ケア看護師として勤務しています。全国各地で高齢化に関する問題が取り上げられていますが、恵那市も高齢化率は全国平均を大きく上回っており、今後も一層高齢化が進んでいくと予想されています。今回はこのような地域病院における特定ケア看護師の活動の実際についてご紹介させていただきます。

整形外科病棟における役割

市立恵那病院の特定ケア看護師は、整形外科病棟専属として主に整形外科入院患者さんの内科的な問題に対する介入を指導医のもとで実施しています。骨折で入院する患者さんが多いですが、総じて高齢であり、かつ複数の基礎疾患を持っていることが多いため常に病状悪化の可能性を考えながら対応することが求められます。整形外科病棟における特定ケア看護師の具体的な役割は、内科的リスクの高い患者さんの周術期管理や発熱や脱水など入院中に生じる異常への初期対応や治療介入後のフォローアップを行うことです。患者さんに生じている問題を見つけるところから主体的に動き、指導医への相談や治療介入、主治医への報告、その後のフォローアップまで責任をもって行うように心がけ

ています。介入した患者さんは毎日状態を確認し、介入を必要とした問題についての治療方針を指導医と相談し、検査や投薬の計画を立てていきます。また、病棟患者さんの採血やその他の検査結果は一通り確認し、異常時には病棟看護師と検査結果を共有しながら注意すべき点などをアドバイスするようにしています。コメディカルとの関わりも多くチーム医療を活性化させる役割もあると考えています。基本的には整形外科病棟での活動が主ですが、直接動脈穿刺による採血や末梢留置型中心静脈カテーテル挿入などの特定行為については院内横断的に実施をしています。

通常の看護業務からは離れ、医師が外来や手術で病棟不在となる間に生じる異常に対応できるようフリーな立ち位置で活動をしています。病棟看護師との連携は市立恵那病院における特定ケア看護師の活動の根幹になる重要な部分であると考えています。私自身も看護師であるため病棟看護師とのコミュニケーションは円滑に行え、些細なことでも相談してもらえる関係性があります。病棟看護師との連携を強化することにより、日常的な患者ケアを通して得られる小さなサインも逃さずにキャッチすることができます。日常のありふれた情報に医学的な解釈を加えることができればトリアージの精度も高まり、異常の早期発見・早期対応につなげることができると思います。言い換えれば、異常の火種を探し、その火種が小さなうちに消すことによって、結果的に患者さんにとっても医

療従事者にとっても医療負担の軽減につながると考えています。

臨床推論の重要性

JADECOM-NDC研修センターでは特定行為そのものだけでなく、臨床推論の教育に力を入れています。看護師が臨床推論を学ぶ意義はここにあると考えます。治療介入が必要な患者さんの情報を集め、整理し、タイムリーに医師につなぐことが重要であり、少ないリソースの中で生じる「医療のすき間」を埋めることこそが地域病院で活動する特定ケア看護師の役割の本質であると考えています。その役割を発揮するためには臨床推論をもとにした判断と病棟看護師をはじめとした多職種との連携が必須であると感じています。

全ての区分を学ぶ意義

看護師の特定行為研修修了者の働き方は地域や施設のニーズによりさまざまであると思います。市立恵那病院では病棟専属型の動きをとっていますが、これは地域病院において必要とされる一つの働き方になると考えています。また、他施設の特定行為研修修了者からは「21区分全部必要ですか？」と21区分38行為全てを履修していることに驚かれることがよくありますが、私は地域で働くからこそより広く履修しておくべきだと強く思います。確かに、特定行為そのものだけを考えれば地域病院で実施する可能性が極めて低い内容が含まれていることは事実ですが、「医療のすき間」を埋める役割を遂行するためには各特定行為を習得するために得た、臨床推論を含めた知識の部分が不可欠であると思うのです。今後、高齢化が一層進んでいくことを考えれば地域病院に限らず、特に在宅医療分野においてはジェネラルに活躍できる人材が求



められるはずであり、21区分38行為を学んだ特定ケア看護師の活動の場はより幅広くなるのではないかと考えています。

病院のサポート姿勢をバックに

特定ケア看護師の活動は医師の理解と協力があってこそ成り立っています。市立恵那病院には困った時にはいつでも相談に応じてくれ、特定ケア看護師が行う内科的介入の後ろ盾となってくれる医師がいます。手探り状態で開始した特定ケア看護師の活動でしたが、そのような医師の支えがあってこそ地域病院に求められる特定ケア看護師のあり方を見出すことができるまでに至りました。信頼を獲得できるよう自分自身の人物力を高める努力が必要であることは言うまでもありませんが、やはり、病院という組織が特定ケア看護師の活用に明確なビジョンを有し、サポートティブな姿勢を持ってくれることが特定ケア看護師としての活動の大きな後押しになったと感じています。

おわりに

これから、特定ケア看護師の仲間が増えていく中で地域のニーズに沿った新たな役割の開拓を目指しつつ、地域医療に貢献できるように努力を続けていきたいと思っています。